

米國佛教の現状

桑港日蓮宗教會主任

青柳正法

一、米國に佛教は未だ進出せず

宗教が一國或は一民族の中に傳播すると言ふことは其の國民又は民族の生活の根底にまで食ひ入り其の國民の生活觀念或は様式までも宗教的に指導する時始めて言はれる言葉である。

現在アメリカに於ける佛教は四十年の傳道の歴史を持ち乍ら、何れ程アメリカ人の思想の上に貢獻したかと言ふに誠に残念乍ら皆無と言はざるを得ない。それでも現在約百名に近い佛教の僧侶が、五十個所以上の教會を擁してせつせと布教に努力して居る。

對象は皆日本人である。これを宗派別によると、眞宗教會數四十、開教師數七十、信徒數約五千戸。日蓮宗教會數六、開教師八名、信徒數一千戸。禪宗教會三、開教

師六、信徒約八百。眞言宗教會二、開教師四、信徒約五百。淨土宗教會一、開教師二、信徒約二百である、これを布教の狀態から一言に盡せば「追ひ掛け布教」である信徒全部は例外なく佛教の家庭で生れ、或る年齢まで日本で佛教の雰圍氣の中に育つた生粹の佛教徒である。それが青雲の望みを懷いてアメリカに渡り、幾度か盆、正月を迎へる内、種々の苦難や不幸に遭遇して宗教心が蘇り、お寺参りや先祖供養を欲求する心が生じ、するが日々日本迄歸ることも出來ず、自然彼等の手でお寺を建て日本からお坊さんを招待したと言ふのが教會の起源であり、爾來多數の僧侶が開教師と稱して入り替り立ち替り、日本の生家が眞宗であつた者を眞宗教會へ、日蓮宗であつた者は日蓮宗教會へ、禪宗であつた者は禪宗教會

へ集めたまで、在米同胞を宗教別に色分けしたと言ふのが所謂「追ひ掛け布教」と稱するものである。

然し一口に追ひ掛け布教と言ふものゝ此れが亦、内地の寺院住職の様に安閑としたものでない事は勿論である。教會を經營するにも日本の寺院の様に不動産等の財源がなく、月々多額の經費を教會費として信徒から徴收せねばならない。其の結果信徒は經營主で、僧侶は傭はれ者と言ふ様な氣風が生じ、教權が地に落ちて、やゝもすると、存在價値を失ふに至る。

其の他、人的資源に乏しい事や、布教材料に不便する事はまだよいとして、一人の開教師で教會の法務から日曜學校、婦人會、青年會、日本語學校と三人前位の仕事をせねばならない。

現在アメリカの佛教の勢力を保持して居る日本人第一世の平均年齢は五十四歳である、後十年を出でずして、彼等は殆ど絶滅すると見てよい。而もこれを受け繼ぐ第二世の年齢は漸く二十五歳未満であり、中樞となるべき

肝心の壯年層が缺けて居る。それ故今後、在來日本人間に一時的にせよ衰頹時代の來ることは必然である、この間、如何にして現在の佛教々線を確保するかは大きな問題である。

二、第二世への布教狀態

第二世は勿論アメリカの國籍を持つアメリカ人である元來アメリカの法律に徒へば人種の如何に拘らず、アメリカ領土内で産れた者はアメリカの國籍を持つ事になつて居り、又日本の法律に従へば日本人を父とする者は何處で産れやうとも日本人であるので、第二世は同時に日本人でもあるのである。彼等が生れて小學校へ上る迄は父母の膝下で日本語を話し、父母の風俗、習慣の中で日本人の小供らしく育つが、やがて學校へ上り、アメリカ人としての學校教育を受け、社會教育の感化を施された結果、アメリカ人として振舞ふことに一種の誇りを感じ、言語も動作も、思想も段々父母のそれと異つてゆきやゝもすると、親と子で意志の疎通を缺く様な結果にも

なることがあるのである。

勿論、彼等の父母は多くは日本からの「出稼ぎ人」であり、同時に學ばない人達である。彼等が學ばなかつた變りに小供達は人並以上に教育させてやり度いと言ふ人情を持つて居る。こうした二世が中學校、大學校と進み

アメリカナイズされた思想や感情から、彼等の父母を見直した時、無教育な親達これが日本人であると信じてしまふのである。それだけでなくも彼等の學校で習ふ地理の本には、ベルリに依つて初めて發見された小人島で、斯う言ふ人種が住んで居ると、お婆さんが坐つて居る寫眞がのつて居る。これだけ見たら誰でも日本を輕蔑したくなる筈である、彼等が父母の國の文化程度を疑ひ、引いては佛教の如きは野蕃人の偶像崇拜なりと考へる事はあながち無理からぬことである。

斯うした二世に佛教を普及する事は全く困難である。先づ彼等に日本の眞の姿を認識せしめ、日本文化とは如何なるものであるかを教へねばならない。そして先づ彼

等の心に親に對して尊敬と感謝の念を起さしめ、彼等の血の中に佛教を呼び醒して行かねばならない。この目的の爲に、教會内に日本語學校、日曜學校、青年會等を経營して居る。

三、二世の教育機關に就いて

二世に日本語を教へる日本語學校は一時米化運動の華かなりし頃、日本語不要論等が起つて一時下火になつたこともあるが、これは往時の事で現在では加洲だけでも學園數二百を數へ、これに携る者七百を突破する状態である。それ故、今では、日本語を知らない二世は殆どなく、誰でも尋常六年位の實力は備へて居る、これは一見佛教布教には無關係の様であるが其の實、重要な一階梯である。

次に日曜學校であるが、これは二世の唯一の宗教々育機關である、方法に於ては大體日本の寺院經營の日曜學校と餘り大差はない。

青年會は日曜學校の延長であるべきであるが、寧ろ青

年男女の社交俱樂部と言つた方が當つて居るかも知れない、教會は彼等の爲にダンシングホールであり、ピンポン場であり、雨天体操場でもある、遊ぶことに事かない彼等を教會に引き付けて置かうとするには、相當に苦心を要する仕事である。

ついで乍ら此處に日支事變が彼等に及ぼした影響に附いて一言書きそへて見たい、日支事變は彼等に二つの收穫を齎らした、一つは彼等が日本民族であることを發見した事に、二は日本の眞價を發見した事である。

彼等は今迄アメリカ人として人からも認められ、自分も亦さう信じて來た、然るに日支事變が初まると、アメリカの空氣は俄然日本に對して悪化した、學校と言はず路上と言はず、米人は二世の顔を見ると、日本は侵略國だとか日本人は弱い者いぢめをするとか、お前はチャツプではないかと言はれる。

二世の持つて居た米國人としての誇りは米國人に依つて完全に叩き落されて仕舞つたのだ、さうだ俺は日本人

だ見る、日本は強いではないか、今に見ろ日本人の手でお前達の高い鼻をへし折つてやるぞと言ふ血の叫びが彼等の胸を押し上げて來たのだ、日本人はアメリカ人の持たない物を持つて居る。さう思つた時、彼等の親達が如何なる苦難に逢つても黙々として奮闘して來た謎が解けたのだ、尤もこれを意識した者は極めて少數であつたにせよ、足許を忘れて居る彼等に内觀する事を教へた點で日支事變は役立つて居る。

四、アメリカ人に對する布教

アメリカ人と言つても二世を除いた白人種に對しては初め言つた様に全然布教の實績は上つて居ない。英譯書としては古來相當翻譯されたものはあるが、これ等は單に學者が學者に佛教を紹介した程度のもので、哲學としての佛教である、勿論、眞宗の如き二三の白人開教師が無いではないが、多くは物好きや趣味から一時の出來心でなつた、俄同心と言ふ類で、三人寄れば三人の阿彌陀佛觀がまち／＼であつたりする連中である。

又或る禪僧の如きは三十年來主として白人相手に布教して居るが、見る可き効果が上つて居ないやうである。

さて日蓮宗では二世出身の小田辨明師が近く渡米するが師の將來は大いに期待するものがあると思ふ。又目下身延山に於て修業中のジャン・デビッド・プロボウ君などがアメリカ人の間に地盤を得て、活動する時になると相當新らしい分野を開拓するものと信ずる。

一般にアメリカ人に佛教を布教するのは誠に難中の難とされて居る。

一口に言へば、彼等の持つ文明は物質文明であり、彼等はデモクラシーと言ふ個人主義の上に立つて、人生の目的は享樂にありと我が儘放題の生活を營んで居るので佛教の説く所などとは全く正反對である、矢張り宗教と言へば少しの矛盾はあつてもキリスト教の方が彼等の生活に確かに一致して居るのである。數から言つても佛教などはてんでキリスト教の足許へも寄れないので、彼等も亦佛教などは問題にして居ない、若し將來佛教が彼等

に取つて一つの對抗勢力となるとすれば當然、彼等の強力な壓迫を覺悟せねばならない。

五、白人傳道の難關

アメリカ人の持つ思想が反佛教的であると言ふことは勿論、傳道上の難關には相違ないが、それは登山者に對する高い山と言ふ様なもので、面白いコースであるとも言へる、曾つてキリスト教が日本に傳道された時も、當時の日本人が必ずしもキリスト教的であつたとは思はれない。然し熱心な信者が續出した事は畢竟、傳道者が熱心であつた事と、更に之に効果を並べる經濟的援助があつたからではなかつたか。

そこで先づ第一に問題となるのは人材である、少くとも海外に傳道せんとする者は、一宗を代表する行學の兩面を具備した、眞の出家でなくてはならない。

配偶者と言ふ贅澤品を持たないこと。

金錢等に對して最も淡泊であること。

一生を一つの目的に向つて突進し得る者、これ丈けの

資格が備らないと、他人種の布教は先づ望めないと思つてよからう。此の點日本の高僧、大徳が徒らに大廈高樓に座食して居る時でない事をそつと申し上げ度い。

次に經濟的に支援を必要とする理由は、勿論現在の在米佛教々會が第一世と没落を共にする日には日本からの援助などは、一切不要である、少くとも眞の意味の米國人布教をするには、日本より本部の援助なしでは不可能である。

何となれば、現在の佛教々會を經營、維持して居る日本人側から見れば、先きの見えない白人傳道などは、教會に何の足しにもならない。寧ろ開教師が自分達の希望に反して白人布教をせねばならないのなら、教會を出てやつて貰ひ度いと言ふことになる。

よしんば白人が日本人の教會へ來た處が、彼等は精神的に融け合ふだけの度量を持たないので互に氣まずい思ひをせねばならない。それが現在の日本人の教會である結局二つの民族には二つの教會がなくてはならない。

然るに今、白人社會に教會を建てやうとしても、信仰のない處に教會は建たない。先づ傳道である。白人専門の開教師を作ることである。この費用を日本人教會から得ることは不可能である。又此れを白人から得んにも、信仰のない處に布施はなく、東洋流の乞食などと言ふ生活は彼の地の社會制度が絶対に許さず。托鉢など仕様のなら早速法律に依つて國外遂放を命ぜられるだらう。

結局海外布教は海外に派遣された少數の開教師だけの問題でなく、全宗門的な問題であり、全佛教的問題である。

六、結　　び

最後に宗教は何故海外に迄傳道されねばならぬかに就いて一言私見を述べて結びとしたい。若し宗教が個人だけのものであつたなら他人に語る必要はなく、若し一國家獨占のものなら國外に傳道する必要はないのである。今個人のみ幸福が大乗的に言つて無意味である如く、世界から切り離れた國家の隆盛も亦、無意味なものであ

る。

今、日本は興亡の危期に直面して居る、他國の布教より先づ自國の布教を爲したらよいと言ふ者に對しては、私は言ふ「火事は自家から出したか隣りから出たか」と隣りから出た火を自分の家の中で消さうとして居る者を愚者と言ふのである。

平和とか幸福とかと言ふものは自分だけが餘分に分け取りすることの出来るものではない。萬人が平等に公平に分配される可きものである。それでなかつたなら平和で

興亞の基本工作

北京佛教佛學院名譽理事

結 城 瑞 光

我邦は神代も建國以來も嬌慢邪惡な惡人は討伐しても領土的野心や無謀の權行使をやつたことがない、即ち鬭争のための鬭争に皇軍が動いたことは一度もない、悉

なくて鬭争であり、幸福でなくて不幸である。

佛陀釋尊を見る世界人の眼は等しく尊敬と信賴に輝いて居るが、聖者日蓮を見る眼は或る者は猜疑に滿ちて居るのは何故か。後人が聖者をして小さい器の中に閉ぢ込めたからではないか。

私は日本國の眞の隆昌を望むが故、外魔を挫く海外布教は最大の急務であり、之を粗かにする事は立正安國の祖志を無にする事であると確信する。

くが公義正道の擁護建設のために錦旗が動くのであつた今次事變も此の軌道を出でないのである。

聖戰と謳はれるのは厥の爲である、結論は日本本來の